

稲作管理特報

令和8年7月13日
入善産米品質向上対策本部
黒東地域農業技術者協議会

8～9月の気温は平年より高いと予想されていることから、葉色が淡いほ場では、白未熟粒の発生を防止するため、追加穂肥を施用しましょう。水管理は、幼穂形成期～出穂期までは「飽水管理」を行い、稲体の活力を維持しましょう。また、出穂から20日間は「湛水管理」を必ず行いましょう。



1. コシヒカリの追加穂肥

穂揃期の葉色を4.2～4.5（砂壤土は4.5）に誘導するため、葉色が淡いほ場は基肥一発肥料の場合でも追加穂肥を施用しましょう。

基肥一発肥料を使用したほ場で、7月22日頃(出穂の7日前)に葉色が4.2(洪積土の場合は4.0)以下の場合は、追加穂肥を施用しましょう。

施用時期	肥料名及び施用量
7月22日（水） ～7月26日（日）	「追肥3号」など 穂肥用の肥料※ 7～10kg／10a (窒素成分：1.05～1.50kg/10a) ※その他の肥料（流し込み・ドローン等）については、 担当指導員にご相談ください。

※洪積土の地区 入善町：野中、舟見 朝日町：境、笹川、南保、山崎、大家庄

2. 今後の水管理

○幼穂形成期～出穂までの管理・・・飽水管理

常に足跡や溝に水が残るくらいの状態を保ち、根の活力を維持し、葉色を高めていきましょう。

ただし、4日以上水が滞っていたら落水してください。

※干し過ぎの水管理は厳禁です。穂肥成分が溶出しているのに、水分が無いと稲に吸収されません。もったいない!!



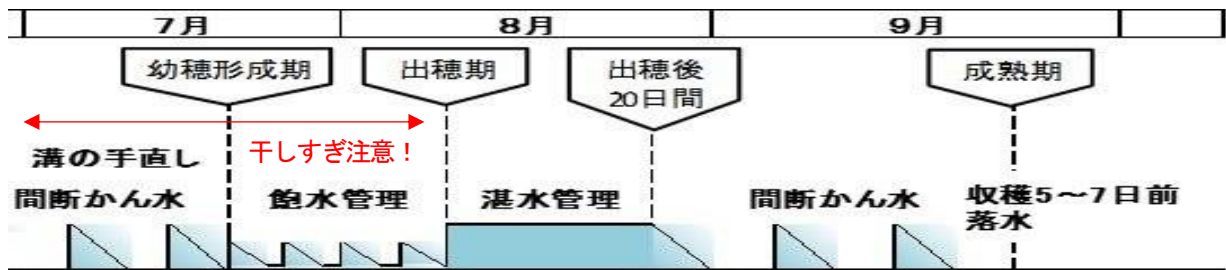
溝に水が残る程度の
飽水管理

○出穂後の管理・・・出穂から20日間は湛水管理

田面が出ない程度に湛水状態を保ちましょう。ただし、溜めっぱなしにせず、ほ場内の水を入れ替えましょう。かけ流しは絶対にしないでください。

○出穂20日以降～刈取り5日前・・・間断かん水で稲の活力維持に努めましょう。

【イメージ図】



3. 中・晩生品種の病虫害防除

「コシヒカリ」「ミルキークイーン」など中生品種
及び「てんこもり」など晩生品種の基本防除 (10a当たり散布量)

		1回目（走り穂～出穂期）	2回目（穂揃期～傾穂期）
防除時期	中生	7月27日(月)～7月29日(水)	8月4日(火)～8月6日(木)
	晩生	7月30日(木)～8月1日(土)	8月7日(金)～8月9日(日)
粉剤体系		ブラシントレバリダ粉剤 DL (いもち病、紋枯病、カメムシ類、ウンカ類) 4kg	ラブサイドキラップ粉剤 DL※ (いもち病、カメムシ類、ウンカ類) 4kg
液剤体系	乗用管理機等	スタークル液剤 10+モンカットフロアブル (紋枯病、カメムシ類、ウンカ類) 1,000 倍 /100ℓ $\left[\begin{array}{c} \text{薬量 } 100 \text{ mL}/10\text{a} \\ + \\ \text{薬量 } 100 \text{ mL}/10\text{a} \end{array} \right]$	ラブサイド K2フロアブル※ (いもち病、カメムシ類) 1,000 倍 /100ℓ $\left[\begin{array}{c} \text{薬量 } 100 \text{ mL}/10\text{a} \end{array} \right]$
	ドローン	スタークル液剤 10+モンカットフロアブル (紋枯病、カメムシ類、ウンカ類) 8倍/0.8ℓ $\left[\begin{array}{c} \text{薬量 } 100 \text{ mL}/10\text{a} \\ + \\ \text{薬量 } 100 \text{ mL}/10\text{a} \end{array} \right]$	ラブサイド K2フロアブル※ (いもち病、カメムシ類) 8倍/0.8ℓ $\left[\begin{array}{c} \text{薬量 } 100 \text{ mL}/10\text{a} \end{array} \right]$

※収穫 14 日前まで

- ・無人ヘリコプターの散布予定時期は、折込みチラシなどで別途ご案内します。
- ・本年は、斑点米カメムシ類が多発しており、今後の発生状況によっては3回目の防除が必要になる場合はお知らせいたします。雑草地付近などが多く、カメムシ類の発生密度が高い地域では、3回目の防除について担当指導員等にご相談ください。

○薬剤散布時の留意点

- ・防除前に畦畔等の草刈りを行いましょう。
- ・1回目の防除は紋枯病に効かせるため、落水し株元に薬剤がかかるように散布しましょう。
- ・防除効果を高めるため、散布の間隔は1週間を目安(10日以上あけない)としましょう。また、防除の際は、畦畔を含む水田全体に薬剤がかかるように散布しましょう。
- ・使用基準を厳守し、周辺作物への農薬飛散防止に努めましょう。
- ・田植えの早晩により、ほ場毎の出穂状況が異なるため出穂状況を確認し、確実に穂に薬剤がかかるように散布してください。

☆熱中症に注意しましょう

高温時の作業はできるだけ避け、複数名での作業を心掛けましょう。

★JA みな穂では営農情報を配信しています。
・営農メール: 水稻栽培情報、気象・災害情報
・LINE: 稲作管理特報などの各種特報
※右の二次元コードを読み込み、案内に沿って
手続きして下さい。

営農メール

LINE